

| 横浜市福祉保健研修交流センター指定管理者選定評価委員会 第三者評価 第2回会議 会議録 | |
|--|---|
| 日時 | 令和7年9月18日(木) 午後3時～5時 |
| 開催場所 | 福祉保健研修交流センターウィリング横浜 5階 501号室 |
| 出席者 | 評価委員:平野委員、佐藤委員、小澤委員、小林委員、平下委員 指定管理者:富士田学(館長) 他2名 |
| 欠席者 | なし |
| 開催形態 | 公開(傍聴者 0名) |
| 議題 | 1 評価案について 2 第3回委員会の公開・非公開について 3 今後のスケジュールについて 4 評価シートの提出について |
| 決定事項 | 1 各委員による評価は、10月9日までに事務局あて提出。 2 提出された委員の評価をもとに、委員長及び事務局で評価取りまとめ案を作成。 3 第3回会議で評価とりまとめ案について審議。 4 第3回会議は公開で開催。 |
| 議事 | <p>質疑要旨</p> <p>1 評価案について</p> <p>ア 記述(案)についての説明 ・事務局から資料1に沿って説明</p> <p>イ 指定管理者へのヒアリング (小澤委員) 令和6年度の収支決算書で、人件費が予算に比べて約1,600万円余っている理由は何か。 (指定管理者) 人件費は、当初提案した人員配置を前提に予算を確保していたが、副館長が法人から臨時着任したことが大きな要因。さらに、年度途中で退職者が出て、その補充を非常勤で対応することが繰り返された。最終的に補正予算も組んだが、結果として約1,600万円が余った。 (小澤委員) 人手不足の中で、配置は十分確保できたのか。 (指定管理者) 一時的に人員不足の時期もあったが、副館長の配置により体制は維持できたと考えている。</p> <p>(平下委員) 団体利用時、交流スペースで食事ができないのは不便だが、理由は何か。 (指定管理者) 交流スペースは様々な利用者が使うため、食事は諸室内でお願いしている。交流スペースでの食事を許可すると、他のところからも利用者が集まり、混雑や管理上の問題が生じるため、現在のご遠慮いただいている。</p> <p>(平野委員長) 飲酒を伴う研修室等の利用について、一定要件のもと利用可能としたとあるが、研究会や学会、懇親会でお酒や軽食を提供できるというイメージか。 (指定管理者) 飲酒解禁のきっかけは、地域団体からの要望であり、一定条件のもとで認めた。研修後の交流なども想定しているが、現時点では利用はなく、現状は地域団体等が利用している。</p> <p>(小林委員) 貸室利用の稼働率は約5割で、前回も稼働率の向上を課題として指摘した。ホームページや会議室サイトへの掲載など工夫はしているが、成果が出にくい状況に見える。民間会議室との競合もある中で、今後の稼働率向上策はあるか。 (指定管理者) 現状予約自体は多いが、仮押さえが多く、利用希望者が予約を取れないケースがある。予約を多く取っていただいている利用者には、必要な予約のみ保持し、不要分は早めに解放するよう働きかけを行っている。また、福祉と一般の利用区分があり、福祉利用100%でも問題ないが、稼働率向上のため広報やチラシ、</p> |

LINE で空室情報発信を行っている。抜本的な改善にはキャンセル規定や予約方法の見直しが必要だが、現状はこうした取り組みで徐々に改善している。

(小林委員) 予約のハードルを下げると仮押さえが増え、市民ニーズを汲めなくなる恐れがある。制限と自由度のバランスを見極めながら進めてほしい。

(小林委員) こころの相談室は令和6年度138日開設で176件利用。以前より相談件数が減っている印象だが、現場ではどのように感じているか。

(指定管理者) 相談件数は令和5年度160件、6年度176件で大きな変化はない。以前に予約の取りづらさの指摘があり、平日・土曜・夜間などの相談しやすい時間帯を設定している。さらにウェブ予約を導入し、新規相談のほとんどがウェブ経由。広報はLINE、ホームページ、ポスターなど多方面で実施し、相談しやすい環境づくりに努めている。

(小林委員) 福祉施設の従事者にも外国籍の方も増えてきている。そういった方にも対応ができるようになっているのか。

(指定管理者) 現在は、英語対応ができるようにはなっていない。ただ、外国籍の方だから利用できないという訳ではない。

(佐藤委員) 全体的に様々な努力をしていることが伝わるが、例えばこころの相談では件数は示されているが、利用者への効果がどうだったとか、研修室貸出についても分析結果からどのようなニーズが把握されているのかといったことが見えにくい。また、ホームページのアクセス状況なども分析しているのか。

(指定管理者) こころの相談室では、相談内容や利用者属性を分析している。例えば、所属は障害福祉関係が多く、職種は介護職や支援員、年代は40～50代が中心である。相談内容は、仕事関係45%、心身の問題25%で、人間関係20%、心の疲れ16%、職場環境10%など。こうした分析をもとに、研修テーマや情報提供に反映している。

貸室利用については、夜間利用が20%台と低いが、昼間は60%超で目標達成。全体では60%未満だが、夜間利用の拡大や予約の取りやすさ改善を進めている。委員の指摘の通り、実施だけでなく分析を行い、改善に活かしている。

(佐藤委員) 昼間の利用率が60%超とのことだが、利用者の年代や属性は把握しているか。

(指定管理者) 福祉保健区分の団体利用が多く、特に研修実施団体は、5～11月に大部屋をほぼ連日利用し、全10回の研修を年3回行う団体もある。こうした団体にとって使いやすくしつつ、たまに利用する団体が希望時に利用できるようにすれば、さらに稼働率を伸ばせる余地があると考えている。

また、部屋タイプ別分析では、小規模な討議室(8名・16名定員)の稼働率が高い。これらは当日予約で利用できる自由度があり、年々稼働率が上昇している。特に語学系の研修を行う団体は定期的に利用しており、この傾向が続けば稼働率はさらに上がると見込んでいる。

(佐藤委員) 人権擁護に関する研修では、シフト勤務で参加できない職員に対して、伝達研修でフォローされているとの記述がある。夜間でないと参加できない人向けに研修を組むなどの活用を広げていく方法もあるのではないかと。

(指定管理者) 委員の指摘の通り、研修方法は多様化している。ウィリングの特徴は、横の連携や対面での交流だが、参加できない人や遠方の人向けにウェブ研修やオンデマンド録画(YouTube)を取り入れている。今後は時間帯の工夫も含めて検討し

ていく。

(平野委員長) 小規模な部屋の需要は今後もあるか。

(指定管理者) 市内には最大 240 人収容の大規模な部屋は少なく、大規模集会には必要だが、利用頻度は高くない。中小規模の部屋で稼働率と収入を確保しつつ、大きな部屋は年 1～2 回の大規模利用をしっかりと押さえていく。

(平野委員長) 研修だけでなく、交流の場としての利用を増やしていくことも可能ではないか。

(指定管理者) 現在の利用区分は福祉 8 割、一般 2 割でバランスは良いと思っている。収入を確保しつつ、施設の設置目的である福祉分野での利用を維持していきたい。

(平野委員長) 動画を撮影できる部屋があると聞いたが、スタジオのようなものか。

(指定管理者) 討議室は構造的に音の影響を受けにくい部屋となっているため、動画撮影している団体もいる。特徴を活かした利用を進めたい。

(平下委員) 当団体でも動画撮影ができ、安定した通信ができる部屋を探している。条件を満たすならアピールしてほしい。

(平野委員長) Wi-Fi はあるのか。

(指定管理者) 安定した通信を重視し、全 30 室に有線 LAN を整備している。

(小澤委員) 収支決算書について、什器費は予算 1,240 万円に対し実績 196 万円で約 1,000 万円の差がある。予算と実績の差の理由を伺いたい。

(指定管理者) 椅子の更新を予定していたが、入札の結果、安価に調達できたため、什器費が減少し、消耗品費に費目が変わったため、予算と実績に大きな差が生じた。

(小澤委員) 福祉保健人材確保について、施設事業所紹介の動画を作成しているが、求職者が動画を見た際に、直接法人のホームページにアクセスできるような工夫はあるか。

(指定管理者) 直接アクセスというのは難しいが、「採用力向上研修」を実施し、採用担当者にホームページの作り方や PR 方法をお伝えしている。

(平野委員長) ホームページに掲載されている研修一覧には、さまざまな講師名や内容があるが、これは皆さんが計画し、講師を探してプログラム化しているのか。

(指定管理者) 基本は当方で企画しているが、年 3 回の研修委員会での委員からの提案や、施設訪問時のヒアリング、受講者アンケートの要望も反映している。講師は他機関の研修などを見てお願いすることもあれば、研修テーマに精通されている講師に紹介を依頼する場合もある。

(佐藤委員) 受講者アンケートでは、満足度や継続意欲なども把握しているのか。

(指定管理者) 理解度や講師の分かりやすさ、研修内容に関する評価、次に受けたいテーマについても記述で回答を得ており、次回の研修企画に活用している。こうした積み重ねは当方の重要な財産となっている。

(佐藤委員) 横の連携を重視しているとのことだが、フォローアップ研修として、受講者同士が再会できるような機会を設けているのか。

(指定管理者) 通常の研修では実施していないが、数か月後に同じメンバーで再会し、学びの活用状況を共有することは有意義であり、今後検討したい。

(佐藤委員) 再会の場で学びの活用状況を共有できれば、波及効果が高まり、悩みの

解消や新たな気づきにもつながる。ぜひ検討してほしい。

(平野委員長)「忙しくて研修どころではない」という声はあるか。

(指定管理者) 多くあると考えている。雇用形態の多様化やスキマバイトの増加で、研修という概念自体がない場合もある。こうした課題にどうアプローチできるのか、今後の課題として検討したい。

(平野委員長) 保育や介護のスキマバイトなど、常勤以外の雇用形態が増えている中で、福祉職の対象は常勤に限られない。多様な働き方に対応し、それぞれの目標に応じたスキルアップをどう実現するかは難しい課題だ。

ウ 評価の審議

(小林委員) 夜間の研修室は稼働率が低く、採算性が悪いとの話だが、本施設は公設民営であり、採算性だけを優先すると、それによって弾かれてしまう市民がでてしまう。採算性が高いところは民間が担う一方で、不採算のところこそ公の意義がある。そうした不採算のところにも応えている点が正当に評価される仕組みがあったほうが、公設民営であるという立場を活かせるのではないか。

(佐藤委員) 広報・PR活動について、夜間も貸し出していることが同じフォントの大きさと埋もれてしまっているため、分かりやすく表示するだけでも利用者の目に留まりやすくなる。

(平野委員長) 稼働率を高めることだけが目的ではないと思う。

(小林委員) 貸室利用において、時間帯ごとの稼働率や、その背景を事業者が説明できる仕組みがあるとよい。我々もそれを評価できるようにすることで、意義を共有できる。全体で5割、6割という稼働率の数字だけでは実態が見えないため、見える化が必要。

(小林委員)「わかりやすい説明や丁寧な言葉づかいが徹底されています」とあるが、徹底されているかどうかは検証困難である。指定管理者と我々のやりとりから、丁寧な対応をしていると推察できるが、記録から確認できるのは「丁寧な対応をする姿勢が見られる」という程度ではないか。表現を再検討した方がよい。

(佐藤委員) 防災業務について、区切られた空間が多い施設であるため、防災対策は重要だと考える。避難経路図がどこにあるか、どう出ていくと安全に避難できるのかが分かりにくい。非常時には職員が誘導にかなりの力量を割かないと避難が難しい可能性がある。今後は評価の視点として検討していく必要がある。

(平野委員長) 優先順位が上になりにくい部分はあるが、災害はいつ起こるかかわからない。意識を高めるような基準や表記が必要。

(事務局) 有事の際に限られた人数でどう避難指導するかという視点は非常に大事な視点のため、評価機関の記述で、「施設特性に配慮した対応について検討が必要」と記載する。

(平野委員長) 会計上は特に問題はないか。

(小澤委員) 予算に比べて実績を圧縮できている点は評価できる。人員配置は難しい部分もあったが、非常勤で補充でき、副館長の派遣もあり、大きな不足はなかった。また、椅子やパソコンなど備品の更新を予算よりも圧縮して実施しており、工夫ややりくりが見られる。支払いも適切に行われている。

| | |
|-----|--|
| | <p>(小澤委員) 採用に関して、職を探している人が事業所紹介の動画をみて、法人に直接アクセスできる仕組みがあると、法人側にとっても助かるので、工夫を期待したい。</p> <p>(事務局) 公的機関として紹介レベルであれば問題ないが、特定の法人に直接つなげる取り組みには制約がある。特定法人を推奨することは公平性やリスクの観点からも課題がある。一方で、ただ紹介するだけでは人材難の解消がなかなか進まないということもあるので、書き方の工夫によるところがあると思う。そういう観点を捉えた指定管理者の創意工夫を期待したい、という記載はできるかもしれない。</p> <p>2 第3回会議の公開・非公開について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特に非公開にすべき事由がないため、公開で行うことで了承された。 <p>3 今後のスケジュールについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局から資料2に沿って説明 <p>4 評価シートの提出について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局から10月9日(木)までに提出いただくよう説明。 |
| 資 料 | <p>資料</p> <ul style="list-style-type: none"> 1 評価シート 2 指定管理者評価実施スケジュール <p>【参考】事業実績推移</p> |